参考資料１－２

エコリーフ及びCFPのPCRと原単位の特徴と相違点整理

（制度及びPCRと原単位に着目）

１．　エコリーフとCFPの制度上の特徴比較による整理

① 特徴の比較

LCA を共通基盤にした両プログラムには、共通点が多いが、表示する環境領域に違いがある。

（エコリーフ：多領域、　CFP：単一領域）

② 文書管理と委員会体制

・最上位の基本文書を一体化し、諮問機関として「アドバイザリーボード」に一体化

・下位規程を、計画的に変更していく予定。

③ PCR 制定

・エコリーフは、公募で参加した複数社で WG を設置、PCR 原案作成。

・CFP は、WG 又は個社で作成した PCR 原案をパブリックコメント。

＊両制度共に、その後、レビューパネルで審議・承認し、PCR を公開する。

④ 算定と２次データ

・エコリーフは、PCR で算定方法が詳細に決まっていて算定が容易である一方、
自由度が少なく、自己主張が制限される（比較可能性は向上）。

・CFP は、PCR で算定の要点を規定しているので、算定の自由度が高く、
自己主張を行いやすい　（比較可能性は低下する）。

⑤検証・システム認定

・「個別検証」について、エコリーフでは対面による検証のみだが、
CFP では、書面による検証を認めている。

・「システム認定」では、エコリーフは JEMAI が認定した審査員が審査（LCA に特化）
するが、CFP では認証審査機関が実施し、内部監査等も要求する（審査範囲が広い）。

⑥ 要員（検証員、審査員等）の登録・管理

・エコリーフは、資格試験・研修を行っている。

・CFP についても、今後資格試験を導入すべく準備中。

結論：CFP 制度は、エコリーフ制度を基本にしているため、ほぼ同等である。
一方で、CFP はエコリーフの経験を踏まえ制度設計を行ったことや ISO（14025
と 14067）の違いによる相違点もあることから、
両者の統合に際しては、本プログラムの ISO との整合性の再確認が重要である。

２．　　エコリーフと CFP の PCR の特徴比較による整理

① エコリーフと CFP の PCR の項目の相違点

「PCR 要求項目」は、内容的相違はない。

② 両プログラムの公開 PCR の分野比較

・エコリーフは、コピー機などの電気・電子類（豊富な情報提供を望む分野）が多く、

・CFP は、食品・生活用品（わかり易さを望む分野）が多い傾向を示す。

（多領域か単一領域を望むか？→製品分野等で異なると推測される。）

結論：PCR 要求項目は同等であるが、PCR 公開製品分野に特徴がある

ISO（14025 と 14067）の要求事項の違いで、PCR 内の個々の内容には相違がある。

（ISO の内容の相違の把握及び整合性確認が重要）

両者の特徴（マルチとシングル指標の公開の用途・効果・目的の）違いによる、

分野の相違。

<u>目的（用途）別の柔軟な PCR の必要性が示唆される。</u>

３．　　エコリーフと CFP の原単位の特徴比較による整理

① エコリーフの二次データ（共通原単位）

エコリーフで使用可能な共通原単位は、素材製造から廃棄・リサイクルまでの分野の 148 個のみ。

（使用できる原単位を特定←比較可能性の追求のため）

② CFP の二次データ（各種原単位）

CFP では、基本データ（1231 個）の他に、複数の利用可能データの使用を認めている。

（広範囲な分野に広く普及するため、使用原単位を特定していない）

③ 定量型環境ラベル／二次データの特徴(現状認識)

定量型環境ラベルに利用可能な二次データとして、海外では複数のデータベースを使用する傾向である（日本では、エコリーフが限定、CFP は複数の原単位を用いている）

④ 二次データベース(DB)限定有無による相違点

データベースを限定しない事により、算定の幅（選択枝）は広がるが、比較可能性は低下。

結論：両者の違いは、原単位数と限定/非限定にある

→両者の相違は、ラベルの目的に影響されており、

<u>目的（用途）に応じ、原単位の在り方を検討すべきと示唆される。</u>